

悩んだ末に選択した 児童書出版社



N君/H大院 福音館書店、NHK、読売新聞内定

就職先を決める前にN君は『マス読』編集部にも相談にやって来ました。NHK、読売新聞、福音館書店の内定。普通はNHKを……と思うところですが、彼が選んだのは福音館書店でした。

私が就職活動を考え始めたのは、修士1年の夏でした。友人はみんな学部卒で就職したため、「院生でもちゃんと就職できるのか……」そんな漠然とした不安をかかえていました。おなじ研究科の先輩で内定した人に話を聞いたり、ポツポツとOB訪問をしたりして、どこを受けるか考えていました。

漠然とマスコミを受験しようと思いはじめたのは、もう秋にさしかかった頃、新学期が始まる10月くらいでした。いろんなOBや大学

院の先輩に話を聞いてみて、「自分を表現できる仕事」「社会学を活かせそうな仕事」、そんな理由でマスコミ、特に新聞記者を意識するようになったのです。

私にとって幸運だったのは、周りに同じくマスコミへの就職を考える院生の仲間がいたことでした。マスコミの試験は作文や筆記試験などがあり特殊だと聞いていたので、常々「勉強会をやりたいね」と話していました。その時、ひとつ上の先輩に「マス読ライブを

に備えて気持ちがあがってモードになってきました。そんな中、偶然にも出版社志望の友人から福音館書店のエントリー締切が12月20日だと聞き、練習のつもりで受けてみることにしました（あまり大きな声では言えませんが、この頃は児童書出版なんてまったく視野に入っていないからです。新聞記者になろうと思っていましたから……）。

福音館書店へのエントリーを無事にすませ、1月、マス読ライブに参加してくれた学生に声をかけ勉強会を発足しました。新聞・NHK勉強会、広告勉強会、出版勉強会と3つの勉強会ができ、週1回試験対策の勉強をしました。一人ではなかなかできない作文や筆記試験対策などを、この勉強会を使ってできたのはとてもよかったです。また、同じマスコミを受験する仲間がたくさんいることで、安心感もありました（ちなみに私は、新聞・NHK勉強会に参加していません）。

志望業界を選ぶ際、第一志望群、第二志望群……という形で分けるといいように思います。私の場合、新聞・NHK、専門出版社、生保・食品メーカー・生活用品メーカーというふうに分けましたが、こうすると同じ志望

群をほぼ同じ志望動機で書いてエントリーの時に効率的です。例えば、第一志望群の報道なら、報道を志望する理由を考え、後は会社ごとに「なぜその会社なのか」考えればいいわけです。

2月になると、マスコミでは、民放のエントリーや面接ラッシュとなり、マスコミ以外のエントリーも始まります。この頃から、就職活動が本格化してきます。私は20〜30社エントリーしましたが、エントリーシートを書く作業はいかに効率的に、個々に質の高いものを書き上げるかが鍵になります。

2月23日、福音館書店作文+グループディスカッション。直前の民放エントリーラッシュ（とテレ朝のWeb試験を受け忘れた悔しさ）から気持ちを切り替え、はじめての作文試験+GD（グループディスカッション）に望みました。作文は、勉強会で練習しておいてよかったと痛感。「韓流」のテーマに、持っていたネタをそのまま書くことができました。また、GDでは「再販制度」について6人で討論。司会を買って、時間内になんとかうまくまとめることができました。

2月24日、テレビ東京1次面接。時間が短

大学内で開催してみてもと勧められ、おもしろそうなのでやってみることにしました。そこに来てくれた学生に声をかければ、勉強会も発足できると思ったからです。

先輩から創出版を紹介してもらい、編集長の篠田さんから講演者を紹介してもらったり、運営スタッフを集めるために他大の学生に声をかけてもらったりしました。また、ゼミの先輩や新聞労連の方にもお願いし、ゲストで来てもらうことができました。そして、12月9日に無事マス読ライブin一橋大を開催することができたのです。当日は、200人近くの学生が参加してくれました。

イベント前の2週間は忙しく、3時間しか睡眠を取れない日が続きました。ですが、ゲストで来てくれる方とコンタクトを取ったりおなじく就職活動をする学生と知り合ったりするなかでモチベーションを高めることができたのは良かったと思います。また、イベント運営自体がとても楽しい経験でした。

20〜30社にエントリー

1月くらいからエントリーが始まり、それ

い（10分くらい）と聞いていたので、はきはき伝える努力をしました。しかし、「ムリしている感じ」が災いしたのか、あえなく敗退……。その後、面接をするのが怖くなってしまい、福音館書店の面接では毎回、「いつ落とされるか」という恐怖が付きまといました。就職活動の怖さを知った面接でした。

3月に入ると、新聞・NHKのエントリーラッシュとなります。この頃は連日エントリー締切に追われ、しかもすべて志望ランクが高い企業ばかりだったのでかなりきつかったです。特にNHKのエントリーシートは凄いやつで、選考でも大きな比重を占めるため、手を抜くことはできません。私の場合は、この時期に福音館書店の面接も進んでいました。そこで、民放は捨て、面接は福音館書店だけに力を注ぐことにしました。

「宿題」をこなして無事内定

3月4日、福音館書店1次面接。志望動機とやりたいことを明確にしていれば、あとはその場でうまく答えることができる内容でした。また、面接中に「営業で、どういう戦略

を考えているか」という話になり、研究不足からうまく答えられないというハプニングがありました。その時、「今度までに宿題として考えてきます！」と言って切り抜けたのですが、この「宿題」が3次面接までつながったように思います。面接後、書店の児童書コーナーに行つて店員に話を聞いたり、家の近くの保育園・幼稚園で話を聞いたりして、自分なりの営業戦略を考えました。そして、次の面接に備えたのです。

3月11日、福音館書店2次面接。ベンチャ―企業でインターンをした経験や大学の勉強の話で盛りあげました。そして、最後の質問タイム、自分から「前回の宿題をやってきました」と切り出し、1週間自分がやってきたことを話し、それを踏まえて営業の提案をしました。面接官の方はとても親身に聞いてくださり、自分の提案にちゃんとコメントもしてくれました。そして最後に一言、「宿題と捉えてやってきてくれてありがとう」と言われたことが、とても嬉しかったのを覚えています。それで、次回も自主的に宿題をやっていくことにしました。

3月18日、福音館書店最終面接。椅子に座

鳥なんだ。一緒にいい仕事をしましょう」と告げられて面接が終わりました。面接官も最後は笑顔で、疲れが吹き飛んだ様子でした。

NHK、読売新聞から内定を

4月7日、読売新聞1次面接。はじめての集団面接でそれだけが不安要素でしたが、実際面接が始まってみると個人面接と変わりはなく、個々の質問に対して自分なりに答えれば大丈夫でした。「今日の記事の批評をしてください」との質問にはかなり焦りましたが、その日も新聞を読んでいてよかったです。自分の志望部署の書いた記事を批評して切り抜きました。新聞社受験において、新聞を読む必要性を痛感した面接でした。



るや否や、「聞くことはほとんど聞いてしまったけれど、今週は何か調べてきましたか」と、いきなり「宿題」について聞かれました。まさか、いきなりそれを聞いてくるとは思いもせず動揺しました。そして、近所の図書館で絵本作家（福音館で書いている方）に会った話をしました。ですが、緊張で前の晩、眠れなかったため、うまくまとめることができませんでした。

結局、面接は不完全燃焼のまま終わりました。「福音館への思い」をうまく伝えられなかったことを、私はとても後悔しました。自

4月12日、読売新聞2次面接。3対1の個人面接で、部長クラスの方が面接官だったので、いつも以上にはきはきと答えることを心掛けました（面接官の歳が、自分と離れていれば離れているほど、それを心掛けた方が良いでしょうと思います）。

4月13日、NHK2次面接。ブースに座るや「君のエントリーシートは人柄が滲み出ている」などと、いきなり褒められました。面接はそんなに盛り上がることなく淡々と終わったのですが、なんとか通過しました。最後に、ディレクターの仕事が話題になり、山登義明『テレビ制作入門』（平凡社新書）の話をしました。かなり時間延長になって話し込んでしまったのですが、「こいつは仕事を理解している」と思われたのかもしれない。

宅に帰って、「5分でもいいので、もう一度面接させてください」と人事部に電話したほどです（もちろん、断られました）。ですから、3月21日に内定の電話がきた時は本当に跳び上がるほど嬉しかったです。

3月中に福音館書店から内定を得ることができ、心理的な不安がほとんどないまま4月の試験を受けることができました。また、面接に対する恐怖心も、内定を取ったことでやっとな克服することができました。4月は、新聞・NHKの選考が一気に終わります。体調管理に気をつけ、一社一社丁寧に臨みました。4月2日、3日は連続で日経新聞、NHK、読売新聞の筆記試験。日経新聞は筆記試験で敗退、NHKと読売新聞は次に進むことができました。

4月1日、NHK1次面接。筆記試験とセツトで評価される面接です。現役のディレクターが面接官でした。この面接では椅子に座った瞬間、「この人、疲れているな」と思いました。面接官の顔色が冴えなかったのです。ですから、なんとか面接官の疲れを紛らわせ、共感を呼ぶような対応を心掛けました。最後に出身地の話になり、「内緒だけど、僕も広

エントリーシートの重要性も痛感した面接でした。4月14・15日、読売新聞インターンシップトライアル。これが、就職活動で最も印象に残った体験かもしれません。私は静岡支局で模擬記者会見・街頭取材をしました。読売新聞の選考は、ほぼここで合否が決まると言われています。私の場合、空き時間を見つけては市内を歩き、商店の人に地域の事情を聞いたりしました。翌日の街頭取材でどんなテーマがきても、土地勘だけは持つておこうと思つていたので、その努力が実つたのか、街頭取材を終えて書いた記事では、「静岡市の特徴を非常によく捉えている」と講評を頂くことができました。支局長からそこまで褒めていただいたことにとっても励まされました。

就職活動日誌

- 12/20 福音館書店ES→○
- 1/7 エフエム東京プレES→○→辞退
- 1/30 福音館書店Webテスト→○
- 1/31 テレビ東京ES→○
- 2/10 カゴメES→○
- 2/14 サッポロビールWebテスト→○
- 2/15 テレビ朝日ES→○
- TBS ES→×
- フジテレビWeb作文→○
- 2/21 味の素ES→○
- 2/23 福音館書店作文+GD→○
- 2/24 テレビ東京1次面接(1:1)→×
- 味の素Webテスト→○→辞退
- 2/25 カゴメ筆記試験→○
- 2/26 花王ES→○→辞退
- 明治製菓ES→×
- 3/3 NHK ES→○
- 3/4 福音館書店1次面接(2:1)→○
- 3/7 カゴメセミナー→×
- 3/8 日本生命1次面接→○
- 3/10 フジテレビ1次面接→辞退
- 3/11 福音館書店2次面接(2:1)→○
- 3/15 第一生命1次面接→○
- 日本経済新聞ES→○
- 読売新聞ES×切→○
- 3/18 福音館書店3次面接(4:1)→内定
- 毎日新聞ES→○
- 3/21 日本生命2次面接→○
- 3/23 第一生命2次面接→辞退
- 3/24 サッポロビール1次選考→辞退
- 3/27 住友生命1次面接→辞退
- 日本生命3次面接→辞退
- 3/31 中国新聞ES→○
- 4/1 NHK1次面接(1:1)→○
- 4/2 日本経済新聞筆記試験→×
- 4/3 NHK筆記試験→○
- 読売新聞筆記試験→○
- 4/7 読売新聞1次面接(3:4)→○
- 4/10 毎日新聞筆記試験→辞退
- 4/12 読売新聞2次面接(3:1)→○
- 4/13 NHK2次面接(1:1)→○
- 4/14 読売新聞インターンシップ→○
- 4/16 NHK3次面接(4:1)→内定
- 4/21 中国新聞筆記試験→辞退
- 4/22 読売新聞最終面接(4:1)→内定

現することができると考えました。

以上のような理由から、私は福音館書店で働くことにしました。友人、知人からは意外だと言われることが多かったですが、自分にあった人生の選択をしたわけですから悔いはありません。

読売新聞から内定をもらい、私は就職活動を終えました。そして、内定を得た3社のなかから就職先を決める作業に入りました。私は常々思いますが、内定を取ってからが本当の意味での「就職」活動ではないでしょうか。内定を取ることには無我夢中の時期が終わり、はじめて冷静に考えることができるからです。内定を取った会社を前に、自分が生涯で成し遂げたいことを考えて慎重に決めるべきだと思います。

さらには別の基準があることに気付いたのです。それは、「気持ちのゆとりとして、やさしさを維持できること」「できれば仕事で家庭生活とうまく調和できること」の二つでした。「やさしさ」という点では、もし新聞記者になるなら普通の人の目線を大事にしたいと思っていました。しかし、大手メディアの現状を見、本当に報道すべきことを報道しているのか、メディアの役割をちゃんと果たしているのか、メディアの役割を持っていました。その意味では、私はむしろ地方紙の方に期待してました。だから、中国新聞も受けたのです。

4月16日、NHK3次面接。理事クラスの方が面接官だったためかなり緊張しましたが、明るくはきはき受け答えすることだけを気をつけました。最後に、エントリーシートを書くときインクが切れて苦勞した話になり、なんとか和やかなムードで面接を終えることができました。そして4月20日夜、無事内定の電話をいただきました。NHKは志望度が高かっただけに、とても嬉しかったのを覚えています。

読売新聞から内定をもらい、私は就職活動を終えました。そして、再度、福音館書店、NHK、読売新聞のOBに話を伺いました。NHKのあるOBは「内定を取った後まで話を聞きに来たのは君がはじめて」と言っていて驚いていましたが、就職先を決めるに当たってはそのくらいの方がいいように思います。それまで私は「自分を表現できる仕事」「社会学を活かせるような仕事」という基準で就職活動をしてきたわけですが、ここに至るまで一度、自分がどう生きていきたいか考えてみることにしました。すると、自分の心のなか

さらには別の基準があることに気付いたのです。それは、「気持ちのゆとりとして、やさしさを維持できること」「できれば仕事で家庭生活とうまく調和できること」の二つでした。「やさしさ」という点では、もし新聞記者になるなら普通の人の目線を大事にしたいと思っていました。しかし、大手メディアの現状を見、本当に報道すべきことを報道しているのか、メディアの役割をちゃんと果たしているのか、メディアの役割を持っていました。その意味では、私はむしろ地方紙の方に期待してました。だから、中国新聞も受けたのです。

福音館書店に決めた理由

4月22日、読売新聞最終面接。「インターンシップの感想」「健康診断時の適性検査(クレペリン)の結果が悪かったが、なぜか?」「NHKからも内定をもらっているよ」のだが、それでも新聞社なのはなぜか?」などを聞かれました。

読売新聞から内定をもらい、私は就職活動を終えました。そして、再度、福音館書店、NHK、読売新聞のOBに話を伺いました。NHKのあるOBは「内定を取った後まで話を聞きに来たのは君がはじめて」と言っていて驚いていましたが、就職先を決めるに当たってはそのくらいの方がいいように思います。それまで私は「自分を表現できる仕事」「社会学を活かせるような仕事」という基準で就職活動をしてきたわけですが、ここに至るまで一度、自分がどう生きていきたいか考えてみることにしました。すると、自分の心のなか

さらには別の基準があることに気付いたのです。それは、「気持ちのゆとりとして、やさしさを維持できること」「できれば仕事で家庭生活とうまく調和できること」の二つでした。「やさしさ」という点では、もし新聞記者になるなら普通の人の目線を大事にしたいと思っていました。しかし、大手メディアの現状を見、本当に報道すべきことを報道しているのか、メディアの役割をちゃんと果たしているのか、メディアの役割を持っていました。その意味では、私はむしろ地方紙の方に期待してました。だから、中国新聞も受けたのです。

(www.mynewsjapan.com)、「ビデオニュース・ドットコム(www.videonews.com)」、月刊『創』、佐野真一『誰が本を殺すのか』など。就職活動で最も大事なのは、内定を取ることはありません。それを通して、いろいろな人に会い、社会の現実を知ることこそ、一番大事なことでないかと思えます。その上で、自分がどのように生きていきたいか、じっくりと考えてください。これだけ様々な人に会えるのは学生のうちだけ、どんどん人に会い視野を広げてください。そして、自分にあつた仕事を見つけたいと思います。